



書きそんじハガキ・キャンペーン 2021成果報告書（2020年度事業）

集まったハガキ
（タンス遺産）

約 1,125,745枚

5,291万円の募金相当

完成した寺子屋

1軒

学んだ人びと

6,071人

皆さまからのご支援で、アフガニスタン、カンボジア、ネパール、ミャンマーで教育を受ける機会がなかった6,071人の人びとに、識字クラスや小学校クラス、幼稚園クラスほか技術訓練など、たくさんの学びの機会を届けることができました。

※ 写真は、感染対策のため外で行った幼稚園クラス



公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟



私たちは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



©DENTSU INC

112万枚以上の八ガキ（タンス遺産）達成！ ※ 約5,291万円の寺子屋募金に相当

前回の書きそんじ八ガキ・キャンペーンも、地域ユネスコ協会・クラブをはじめ、企業、団体、学校など多くの皆さまから多大なるご協力をいただきました。年賀はがきの販売枚数や利用の減少にもかかわらず、2020年12月～2021年10月の約1年間に集まった書きそんじ八ガキをはじめとする「タンス遺産」は約**112万枚**分。約**5,291万円**の募金に相当します。

※1枚=47円で計算 現在集計中の八ガキ・切手を含めると最終的な数量は増える見込みです。

今年も、書きそんじ八ガキ・キャンペーン応援キャラクター「書きそんじロー」をはじめとするタンス遺産3兄弟は、皆さまから大変ご好評をいただき、キャンペーンを盛り上げていきます。

1989年に開始した**世界寺子屋運動**は、皆さまの長年のご支援のおかげで、これまでに約135万人の人びとに学びの機会を届けてきました。

しかし、世界には、未だに学校に行けない子ども約1億2100万人（うち初等教育では5,900万人）、読み書きできない大人（15才以上）は7億7,300万人もいます。コロナ禍の休校による世界の子どもたちの学びの喪失は、もし何の対策もされなかった場合、世界のGDPの10%のロスにつながるとも言われています。（世界銀行）

すべての人に開かれた学びの場である寺子屋の役割は、ますます重要になっています。たいへんな状況ではありますが、今年も皆さまからのご協力をよろしくお願いいたします！

「書きそんじ八ガキ・キャンペーン」
の情報はこちら





アフガニスタン寺子屋プロジェクト

タリバン全土掌握後の現状について（2021.11.1現在）

2021年8月15日に、タリバンが予想を超える速さでカブール入りし実権を握りました。それ以降、日本ユネスコ協会連盟カブール及びバーミヤン事務所は閉鎖しています。現地職員10名の無事は確認しており、活動休止中の手当や、国外退避希望者への対応など、外務省をはじめ様々な団体とも情報交換しながら、慎重に対応にあたっています。

2020年度後半～2021年度にかけての実績

新型コロナウイルスによる中断をはさみながら、20年度の活動は完了しました。一方、21年度に予定した活動は、デルタ株の急拡大による中断と政変により、現在は中止を余儀なくされています。

識字クラス

30年以上にわたる内乱により学校や教育システムが破壊されたアフガニスタン。最新の推計では成人識字率は38%と世界最低水準です。プロジェクトでは、特に女性の識字率向上のための識字クラスを実施してきました。また、国内の紛争地から逃れてきた国内避難民も対象としました。

2020年度:515人

19年度開始。コロナによる中断を経て完了。

2021年度：学習者登録 625人

デルタ株による中断の間に政変が発生し、休止。



教員、学習者ともに全て女性の識字クラス

研修活動

識字などの教員や、寺子屋運営委員を対象とした研修を行いました。運営研修には、アフガニスタン識字局の職員も参加し、行政との連携のあり方や、地域社会の役割も話し合われました。

2020年度：38人

2021年度：90人を予定

デルタ株による中断の間に政変が発生し、休止。

職業訓練クラス

裁縫クラス、刺繍クラスおよび革製品づくりなど地域の収入に結び付く技術研修を**12クラスで308人**が受講しました。

2020年度：308人

19年度開始。コロナによる中断を経て完了。

2021年度：540人を予定

デルタ株による中断の間に政変が発生し、休止。



刺繍クラスの様子



男性も多く参加する裁縫クラス



カンボジア アンコール寺子屋プロジェクト

約6,000人へコロナ対策支援（20年度）

シェムリアップ州の全18軒の寺子屋が感染予防の拠点となるよう、緊急支援として「衛生用品の配布」「寺子屋の浄水機修理」「衛生教育」の3つの活動を展開しました。衛生教育ではシェムリアップ州保健局と連携し、分かりやすい教材の開発から、寺子屋の運営委員へのトレーナー研修を経て、各地域に住む人々に広くウイルスの特徴や感染予防方法を伝えました。

感染対策しながらの活動

感染拡大期には度々ロックダウンの措置があり、中断を余儀なくされますが、当局の感染防止ガイドラインに従いながら、幅広い教育活動と収入向上活動を続けています。20年度は、識字・幼稚園・小学校クラス・中学校進学支援に929人、小口融資・養牛・米銀行（米貸付）に390家庭が参加し、学びと生活向上に取り組みました。



衛生教育研修会の様子



識字クラス

寺子屋が生活困窮防止のセーフティネットに

世界遺産アンコール遺跡群を擁し、観光産業が地域経済を支えてきたシェムリアップ州において、観光業の停止は深刻な影響を及ぼしました。また、外国への出稼ぎ労働者で失業により帰国した人も増えています。寺子屋の収入向上活動は、経済的に厳しくなった地域での生活のセーフティネットとしても機能しています。

長期間の休校・遠隔教育による新たな格差

UNESCOによると、カンボジアの休校は全国平均55週間に及んでいます。(11.1現在)その間、テレビやネットで遠隔授業がありましたが、アクセスの有無が新たな教育格差を生んでいます。プロジェクトでは、コロナ禍による学習の遅れや中途退学の増加を想定し、学校に行けない子どもたち対象の支援を強化しています。



“米銀行”の貸付開始日には多くの家族が集まった



小学校クラスは距離を取って着席



ネパール寺子屋プロジェクト

4,000人以上に新型コロナ緊急対策支援 (20年度)

新型コロナウイルス感染拡大を受け、各寺子屋の周辺地域に暮らす住民を対象に、予防ワークショップを行い、**3,120人**が参加しました。また、生活苦に陥った家庭には食糧配布を行い、**1,053世帯**を支援しました。



女性に向けた予防ワークショップ

家庭内識字クラスの実施

識字の新たな試みとして、家庭内識字クラスを実施しました。中高生（12～20歳）100人が保護者100人（父2、母98）に読み書きを、保護者は子どもたちに伝統文化などをお互いに教え合い、教員は子どもたちに読み書きの教授法を指導し、各家庭内での実践にも立ち会うなどして支援するものです。合計**200人**が4か月間のプログラムを終えました。



家でカレンダーの読み方を学ぶ女性

小学校クラス・中学校クラス

プロジェクトでは、コロナ禍による中途退学児童生徒の支援を優先課題としています。小学校クラスは、予定を上回る希望者が集まり、**568人**が学んでいます。中学校クラスでも**58人**が参加しています。それぞれ、現地の小学校・中学校相当の内容を2年ないし3年に圧縮したカリキュラムで、ネパール語・英語・算数（数学）などの科目を学びます。



中学校クラスの授業

幼稚園クラス

小学校入学(5歳から)を控える4歳児対象。ネパール語の単語や英単語を絵を見ながら学習するほか、歌や踊り、集団生活などを学ぶクラスです。現在**200人**の子どもたちが元気に通っています。



幼稚園クラス



ミャンマー寺子屋（継続教育）プロジェクト

2,111人へコロナ対策支援（20年度）

2019年度までの継続教育実施地域を対象に、感染予防対策支援として、マスクと石鹸の配布をしました。保健当局の意識啓発ポスターも掲示し、予防方法の周知を図りました。



マスク・石鹸の贈呈の様子

教員研修のオンライン化

継続教育に携わる教員向けの研修会は、初のオンラインで実施しました。感染状況の収束後すぐに教育を届けるため、慣れない環境ながら、関係者の協力で実現しました。



Zoomで約70人が参加

新しい地域で、480人の青少年が学んだ

20年度からは、それまで実施したことのない地域を対象を移して、小・中学校中途退学児童生徒を対象とする「継続教育プログラム」を行いました。4地域で合計480人の10～17歳の子もたちが、マスクやフェイスシールド着用や、距離を取る感染対策ルールに従いながら、クラスに参加しました。

クーデター発生後も、21年2月末までは、生徒や保護者の強い希望にこたえて継続し、1学期の授業を終えました。しかし、その後の情勢悪化を受けて休止を余儀なくされています。

コロナ禍とクーデターで学べない状態が長期化

21年に入り、2月のクーデターによる混乱、6月末頃からのデルタ株急拡大により、寺子屋のみならず全国でも多くの学校で休校が続いています。さらに生活の困窮で、従来学校に行っていた子どもたちの間でも、中途退学の増加が懸念されています。プロジェクトでは、そうした子どもたちへの支援を優先課題として、今後の計画を立てています。

再開可能となった場合は、継続教育に加え、小学校クラスを予定しています。



20年12月から21年2月までのクラスの様子。1日も早い治安回復が待たれる。

■ 昨年キャンペーンのご報告

カンボジア、アフガニスタン、ネパールおよびミャンマーより、書きそんじハガキにご協力して下さった皆様へのメッセージをお届けします。

カンボジアより

「進学支援プログラム」で中学校に通う生徒からのメッセージ



「感染拡大中の休校期間は、農作業で少し収入を得ていました。学校が再開されてからは、以前の授業を少し忘れてしまっていたけど、支援プログラムのおかげで、勉強が続けられています。以前は、シェムリアップ市に出て、ホテル・レストラン専門学校に編入しようかと考えていましたが、コロナで観光業がストップしてしまいました。今は、高校卒業を目指そうと考えています。」

レア・サムナンさん（ルエル寺子屋卒業・中学2年在籍）

ネパールより

ルンビニの中級識字クラスで学んだ生徒からのメッセージ

「ナマスデ（こんにちは）。私はルパンデヒ郡のルンビニ文化市というところに住んでいます。日本の皆さんに感謝申し上げます。中級識字クラスで、ゴミ捨て場で感染する病気について学びました。いつも屋外のゴミ捨て場に捨てにいらしているので、私には重要な知識です。自分の健康と公衆衛生に気を配るようになりました。携帯電話も使えるようになり、海外で働く息子とビデオ通話ができるようになりました。自分の名前が書けますし、外出先で看板の文字などが読めるようになりました。」

サフィア・カトウンさん（50歳）



アフガニスタンより

カブールの識字クラス（国内避難民キャンプ）で学んだ生徒からのメッセージ

「経済的な理由や地域の治安のために学校に通うことができず、読み書きがずっとできませんでした。目の見えない人と同じように感じていました。でも、今では読み書きができるようになってとても嬉しいです。それによって、NGOが行う国内避難民キャンプの事業のアシスタントとして採用されました。日本の皆さんに国内避難民キャンプで識字クラスを実施してくれて感謝しています。」

（45歳女性）

ミャンマーより現地パートナー団体からのメッセージ

「日本も新型コロナ感染状況やそれに伴う影響が大変厳しい中、私たちに親切をいつもありがとうございます。ミャンマーではコロナに加え、政情も先行きが非常に見通しにくくなってしまいました。しかし、どのような環境下でも教育を絶やすことがあってはならないと思っています。活動再開できる日を心待ちにしています。」